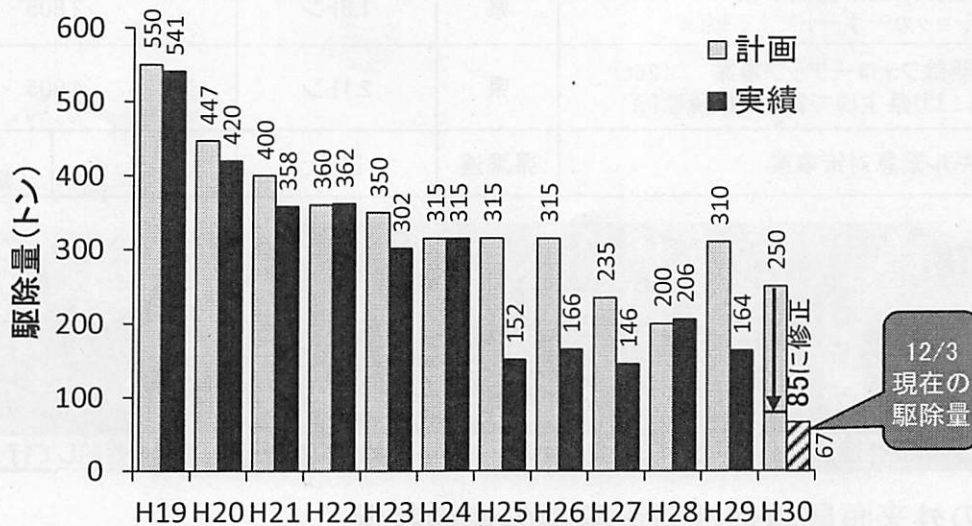


琵琶湖における外来魚生息量について

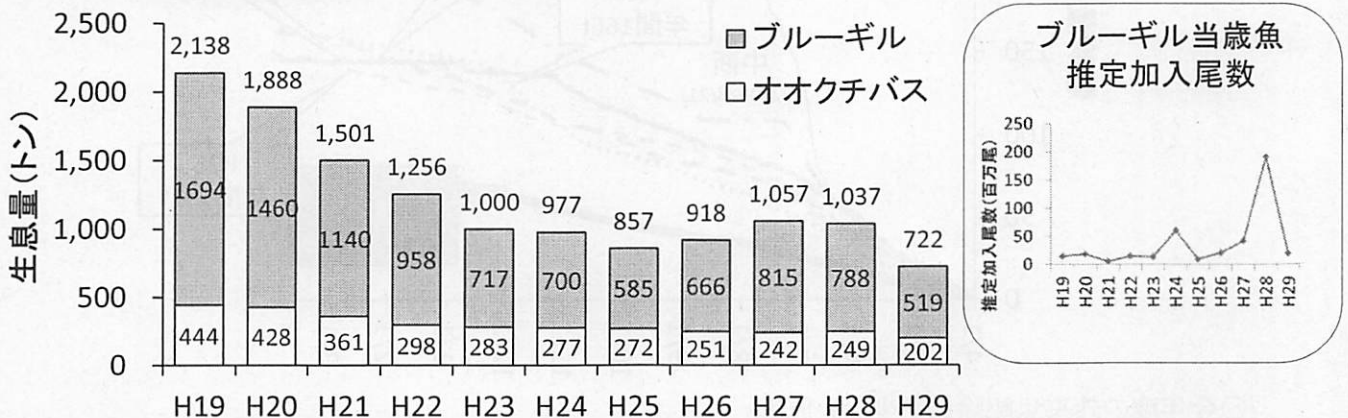
最新のデータをもとに外来魚の生息量を解析した結果、平成26年に推定生息量が増加し、平成27、28年には1,000トンを超えたが、平成29年には推定生息量は722トンと減少した。

1. 外来魚駆除促進対策事業の経過



- 平成24年までの駆除量は、300トン以上の計画量を達成。
- 一方、平成25～27、29年の駆除量は、天候や水草の繁茂、国補助金の不足等により計画を大幅に下回る状況。
- 平成28年は国補助金が不足していたため、駆除を中断したものの、計画量は達成。
- 今年度は外来魚が獲れない状況が著しく、当初計画の250トンを85トンに下方修正(9月補正)。

2. 外来魚推定生息量



- 生息量が平成26年以降に増加した要因は、平成24年に生まれたブルーギルが多かったこと、その後、駆除が停滞したことにより、生存する外来魚が多くなったためと考えられる。
- 一方、平成29年に生息量が減少したのは、平成24年に大量発生したブルーギルが寿命を迎え始めたこと、平成28年には比較的多く駆除できたこと、平成25、26年生まれのブルーギルが少なかったこと、オオクチバスについては電気ショッカーボートや刺網での駆除によりサイズが小型化しているためと推測しているが、本年度の駆除量が大きく減少していることと併せて、さらに要因を検討中。
- 生息量推定は水産資源の解析手法であるコホート解析を適用。この解析では、同じ年生まれの外来魚の生息量を、順次、年齢分だけ過去に遡って計算し直すため、推定値は前回のものとは異なる。

3. 今年度の外来魚駆除の取組

○駆除目標を 年度当初には250トンと設定していたが、駆除実績が大幅に計画を下回ったため9月補正により85トンに下方修正し、ブルーギルの緊急対策調査を実施。

有害外来魚ゼロ作戦事業(駆除目標)	実施主体	今年の11月末現在の駆除実績	事業費(千円)	
			当初	9月補正後
(1)①駆除促進対策事業 (250t →85t) 漁業者による既存漁法による駆除	県漁連	67トン (12/3現在)	82,500 (県費41,250)	28,050 (県費14,025)
(2)外来魚回収処理事業 外来魚の回収・有効利用	県漁連	—	16,804 (県費6,722)	
(3)外来魚産卵期集中捕獲事業 (4t) 電気ショッカーボートによる駆除	県	1.6トン	2,805	
(4)外来魚駆除フォローアップ事業 (26t) 備船により県主導で行う外来魚駆除	県	2.1トン	4,905	
(5)ブルーギル緊急対策事業	県漁連	調査	—	15,000 (県費7500)



既存漁法による駆除

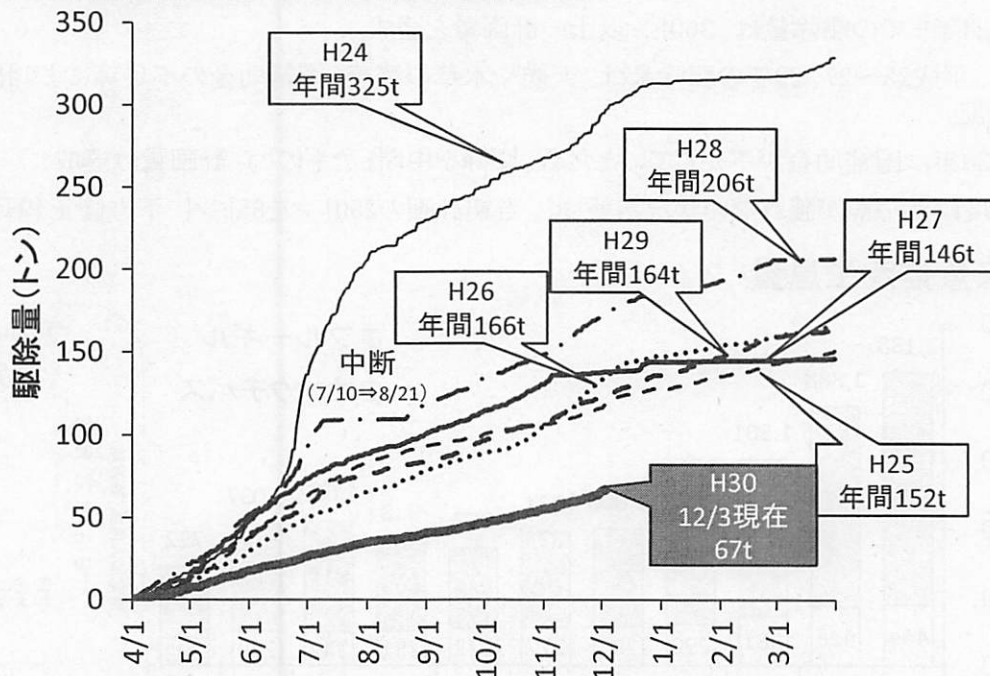


電気ショッカーボートによる駆除



漁船を備船して行う駆除

4. 今年度の外来魚駆除促進対策事業の進捗状況



○今年度の外来魚駆除量が少ない原因

- ・外来魚生息量の8割を占めるブルーギルの捕獲魚が小型の1歳魚で大部分を占め、大型の2歳魚以上が極めて少ない。(体重では平成29年の17.5～31.5%にとどまっている。)
- ・ブルーギルの小型化に伴い捕獲効率が低下し、さらに獲れないため出漁日数も減少している。

5. 今後の対応

- 捕獲効率が低下し、駆除量が減少しているブルーギルの生息実態を把握するとともに、生息量の減少要因を検討する。
- 平成25年度以降の駆除量が低迷する要因の解明や効率的な駆除技術の開発および駆除方法の見直しを行う。